

## 田村均先生のご業績について

宮原 勇

田村先生は、京都大学大学院(哲学専攻)の時代から、ジョン・ロックの研究者として知られており、その意味では、先生の第一のご研究は、このジョン・ロックの哲学から始まったといえる。それは、「ジョン・ロックと微粒子説」や『形相と性質の起源』におけるロバート・ボイルの物質観などのご業績に見られるように、ロバート・ボイルらの提唱した、17世紀の自然科学の粒子説がロックの *An Essay Concerning Human Understanding* (1689) にどのような影響を与えたかの研究であり、その意味で、先生のご研究は、近世哲学を科学史との関係の中に置き、その影響関係を究明した点にまずは第一の意義があるといえよう。この分野でのご研究としては、ロックやヒュームにおいて重要になってきた「因果」関係に関する論文も、重要なご業績として挙げるができるだろう。ちなみに、先生の研究上のご見識の特徴として、近世の科学史に関する幅広い知識を挙げるができる。

そして、次の特色は、1997年の論文から始まる、「自己犠牲」の倫理学的研究である。このテーマでの先生の基本的スタンスは、自己犠牲的行為は個人的な道徳的決断というよりも、周囲の人々の社会的関係から本人が自然と感じとられる、ある種の社会的役割に由来する行為であるというもので、この点は倫理学のみならず、認識論に於いても先生の基本的スタンスとしてあげられる「社会性」の重視の思考が見て取ることができる。

2012年の論文「虚構の語りと言語行為論」以降のご研究は、「虚構」(フィクション)の研究に向けられてきている。特に、小説や絵画、映画、演劇等のフィクションの存在が人間にとってどのような意味を持ち、人間はどのようにしてそれらを認識するかをテーマとしたご研究である。特に、この分野のご研究は、本学における学生教育に活かされてきた。近年は、演劇や漫画などに関心を抱く学生が増え、彼らがそれを「フィクション」として哲学的研究の対象と看做し、研究するようになってきている。その意味では、この分野での先生のご研究は、それを活かして行われてきた先生のご講義に於いて、多くの学生を引きつけ、本研究科での哲学教育の水準を上げることに貢献してきたといつてよいだろう。また、2016年には、分析哲学界におけ

るフィクション研究の記念碑的な著作である、ケンダル・ウォルトン(Kendall Walton)の著作、*Mimesis as Make-Believe: On the Foundations of the Representational Arts*を翻訳し、名古屋大学出版会から四百頁以上にも上る『フィクションとは何か ごっこ遊びと芸術』を上梓し、日本におけるフィクション研究に大いに寄与したことを特記しておきたい。

## ご業績一覧

### I 編著

『科学を考える』

北大路書房 1999年 395頁+vi頁 岡田猛、戸田山和久、三輪和久と共編  
(「哲学者は科学を考えているか」338-365頁執筆)

### II 訳書

ケンダル・ウォルトン『フィクションとは何か ごっこ遊びと芸術』

名古屋大学出版会 2016年 443頁+x頁

### III 共著書

#### 1 『自然観の展開と形而上学』

紀伊國屋書店 1988年 井上庄七、小林道夫編

(「ジョン・ロックと微粒子説」191-223頁担当)

#### 2 『知識という環境』

名古屋大学出版会 1996年 森際康友編

(「経験的知識の成立 ——所与・効用・社会」147-171頁、

「批判への応答 ——誰も経験とは何かを知らない」179-181頁担当)

#### 3 『分析哲学の現在』

世界思想社 1997年 藤本隆志、伊藤邦武編

(「感覚する個人 ——センス・データ論批判と自然主義——」59-92頁担当)

#### 4 『デカルト読本』

法政大学出版会 1998年 野田又夫監修、湯川佳一郎、小林道夫編

(「デカルトとイギリス経験論」192-201頁担当)

#### IV 論文

##### 1 現象主義の検討

『哲学論叢』1982年 第9号 73-84頁 哲学論叢刊行会

<http://hdl.handle.net/2433/24461>

##### 2 ヒュームの因果説

『関西哲学会紀要』1983年 第十八冊 34-39頁 関西哲学会

##### 3 『形相と性質の起源』におけるロバート・ボイルの物質観

『香川大学教育学部研究報告』1987年 第1部 第70号 13-34頁

##### 4 因果的関係の実在性について

『中部哲学会紀要』1989年 第22号 49-61頁 中部哲学会

##### 5 確率論的因果説に関する覚書

『名古屋大学文学部研究論集 哲学』1990年 第36号 49-71頁

<http://hdl.handle.net/2237/7450>

##### 6 「観念」という装置——ジョン・ロックとスティリングフリートの論争から——

『理想』1992年 第648号 65-75頁 理想社

##### 7 所与を越える道——ジョン・ロックとベーコン主義——

『名古屋大学文学部研究論集 哲学』1994年 第40号 65-85頁

<http://hdl.handle.net/2237/7451>

##### 8 感覚と知識——ジョン・ロックとトーマス・シドナム——

『名古屋大学文学部研究論集 哲学』1995年 第41号 105-131頁

<http://hdl.handle.net/2237/5581>

##### 9 ジョン・ロックの自然科学の哲学

『哲學』1996年 第47号 207-216頁 日本哲学会

<http://doi.org/10.11439/philosophy1952.1996.207>

##### 10 人格の同一性について——人類学的視点と哲学的視点——

『名古屋大学文学部研究論集 哲学』1996年 第42号 89-115頁

<http://hdl.handle.net/2237/5590>

##### 11 自己犠牲の倫理的な分析

『名古屋大学文学部研究論集 哲学』1997年 第43号 37-64頁

<http://hdl.handle.net/2237/5599>

- 12 哲学的認識論はいつから科学オンチになったのか？  
『科学哲学』1997年 第30号 29-42頁 日本科学哲学会  
<http://doi.org/10.4216/jpsj.30.29>
- 13 自己犠牲をめぐる三つの物語  
——エウリピデス、ティム・オブライエン、宮沢賢治——  
『名古屋大学文学部研究論集 哲学』1999年 第45号 37-72頁  
<http://hdl.handle.net/2237/5610>
- 14 私は考える、ゆえに、何があるのか？——コギトの自然化と社会化の試み——  
『名古屋大学文学部研究論集 哲学』2000年 第46号 35-80頁  
<http://hdl.handle.net/2237/5619>
- 15 ルース・ベネディクトの哲学的立場——文化相対主義と西洋近代思想——  
『名古屋大学文学部研究論集 哲学』2003年 第49号 25-59頁  
<http://hdl.handle.net/2237/7452>
- 16 私は考えると、何をすることなのか？  
——心の理論に関する発達心理学の最近の研究から——  
『名古屋大学文学部研究論集 哲学』2004年 第50号 41-91頁  
<http://hdl.handle.net/2237/7453>
- 17 The Modern Concept of Man and Hume on Personal Identity  
*Journal of the School of Letters* 2005 Volume 1 pp.19-29  
<http://hdl.handle.net/2237/9073>
- 18 功利主義者が自己犠牲をするとき  
——マーク・カール・オーヴァヴォルドの3論文の分析と評価——  
『名古屋大学文学部研究論集 哲学』2005年 第51号 23-58号  
<http://hdl.handle.net/2237/7454>
- 19 「考える私」以前——デカルト的自我と幼児の自己認識——  
『名古屋大学文学部研究論集 哲学』2006年 第52号 27-73頁  
<http://hdl.handle.net/2237/8400>
- 20 ドナルド・ディヴィドソンにおけるキリスト教的フォーク・サイコロジー  
『名古屋大学文学部研究論集 哲学』2007年 第53号 29-67頁  
<http://hdl.handle.net/2237/8414>

- 21 服従と犠牲——柏端達也『自己欺瞞と自己犠牲』をめぐって——  
『名古屋大学文学部研究論集 哲学』2008年 第54号 43-78頁  
<http://hdl.handle.net/2237/10567>
- 22 フリ・まね・演技の行為論的分析——ゴッコ遊びの認知と行動——  
『名古屋大学文学部研究論集 哲学』2009年 第55号 1-30頁  
<http://hdl.handle.net/2237/12952>
- 23 思想史的概念に関する実験哲学的調査の報告  
——「近代」、「個人主義」、「意志」——  
『名古屋大学文学部研究論集 哲学』2010年 第56号 1-24頁  
<http://hdl.handle.net/2237/13408>
- 24 自己犠牲的行為の説明——行為の演技論的分析への序論——  
『哲学』2010年 第61号 261-276頁 日本哲学会  
<http://hdl.handle.net/2237/13927>
- 25 "Will" and "Ishi" : Explanation of Action in Cross-Cultural Perspective  
*Journal of the School of Letters* 2011 Volume 7 pp.1-13  
<http://hdl.handle.net/2237/14562>
- 26 虚構の語りと言語行為論  
『名古屋大学文学部研究論集 哲学』2012年 第58号 1-29頁  
<http://hdl.handle.net/2237/16777>
- 27 なぜシャーマンと絵とダンスが哲学の問題になるのか？  
『哲学フォーラム』2013年 第10号 1-8頁 名古屋大学文学部哲学研究室  
<http://hdl.handle.net/2237/18352>
- 28 虚構世界における感情と行為：ケンダル・ウォルトンの虚構と感情の理論  
『名古屋大学哲学論集』2013年 第11号 1-34頁  
<http://hdl.handle.net/2237/18351>
- 29 虚構制作の根源性——ケンダル・ウォルトンの虚構論——  
『名古屋大学文学部研究論集 哲学』2013年 第59号 1-34頁  
<http://hdl.handle.net/2237/17716>

- 30 権力の下での行為——日本人戦犯の心理と行為の演技論的考察——  
『名古屋大学文学部研究論集 哲学』2014年 第60号 1-56頁  
<http://hdl.handle.net/2237/19777>
- 31 善と個人——個人における共同的な善への服従について——  
『名古屋大学文学部研究論集 哲学』2015年 第61号 15-43頁  
<http://hdl.handle.net/2237/21540>
- 32 懐疑家フィロはなぜ宇宙的知性を認めたのか  
——ヒューム哲学とキリスト教の関係について——  
『名古屋大学文学部研究論集 哲学』2017年 第63号 19-60頁  
<http://hdl.handle.net/2237/25883>
- 33 事物と私たちの想像論的なかかわりについて  
——ケンダル・ウォルトンの「想像活動のオブジェクト」の概念をめぐって——  
『名古屋大学哲学論集』2017年 第13号 1-21頁  
<http://hdl.handle.net/2237/25877>

#### V 書評、評論、事典項目、その他

- 1 書評： 神野慧一郎著『ヒューム研究』  
『哲學研究』1985年 第47巻 第9冊 135-142頁 京都哲学会
- 2 評論： 予備校と大学  
『香川大学一般教育研究』1986年 第30号 185-190頁  
<http://shark.lib.kagawa-u.ac.jp/kuir/detail/352120120327035236>
- 3 書評： ヒュームとその時代——坂本達哉『ヒュームの文明社会』に寄せて——  
『創文』1996年 377号 10-13頁
- 4 コラム： 「宇宙と世界」、「偶然と必然」、「自然法則」  
伊藤邦武編『岩波新・哲学講義 5 コスモロジーの闘争』1997年  
176-177頁、184-185頁、186-187頁
- 5 書評： 小林道夫著『デカルトの自然哲学』  
『科学哲学』1997年 第30号 142-144頁 日本科学哲学会  
<http://hdl.handle.net/2237/7709>

- 6 書評： 一ノ瀬正樹『人格知識論の生成——ジョン・ロックの瞬間』  
『科学哲学』1998年 第31.2号 121-124頁 日本科学哲学会  
<http://hdl.handle.net/2237/7710>
- 7 事典項目： 「因果性」、「不可侵入性」、「粒子哲学」  
廣松渉ほか編『岩波哲学・思想事典』1998年 岩波書店
- 8 公開講座教材： 変わるか？——戦争と暴力への視点——  
『平成12年度名古屋大学公開講座 かわる・かえる  
：20世紀を振り返り、21世紀を展望する』  
2000年 53-66頁  
<http://hdl.handle.net/2237/16598>
- 9 学会資料： ドナルド・デイヴィドソンにおけるキリスト教的フォーク・サイ  
コロジー再考  
京都科学哲学コロキウム2008年11月23日  
<http://hdl.handle.net/2237/10780>
- 10 学会資料： 自己犠牲的行為は私たちに何を告げているか？  
第68回日本哲学会大会2009年5月16日  
<http://hdl.handle.net/2237/19075>
- 11 学会資料： 暴力の是認と道徳の起源  
第2回応用哲学会大会2010年4月25日  
<http://hdl.handle.net/2237/13929>
- 12 書評： 中才敏郎『ヒュームの人と思想——哲学と宗教の間で』  
『イギリス哲学研究』2017年 第40号 80-81頁 日本イギリス哲学会